

| | |
|------------|---|
| 研究課題名： | 個人防護具適正使用習得者認定制度の立ち上げ効果の検証 |
| 所属(診療科等)： | 公立昭和病院 感染管理部 |
| 研究責任者(職名)： | 一ノ瀬 直樹 (担当室長) |
| 研究期間： | 2021年10月1日～2022年3月31日 |
| 研究目的と意義： | <p>公立昭和病院では2020年2月7日からCOVID-19陽性患者の受け入れを開始し、2021年1月末現在、297人の陽性患者の受け入れを行ってきた。COVID-19の主な感染経路は、飛沫感染、エアロゾル感染、接触感染であり、個人を守り、そして院内感染を防止するためには、適切な個人防護具の使用と手指衛生が重要となる。感染の最大のリスクは、医療従事者による個人防護具の不適切な脱衣による自己汚染に関連していると考えられている。特につなぎ服は脱ぐのが難しくより汚染しやすいことが知られている。また、個々の医療者の独自の着脱方法よりも CDC の推奨する手順での装着脱は汚染が少ないことが報告されており、標準化された手順を遵守することが重要であることを示されている。さらに、積極的にトレーニングをおこなうことで遵守率が高くなることが報告されている(Verbeek et al., 2020)。従って、こうした個人防護具、特に通常使用する機会の少ないものに関しては、適切な手順とそのための訓練が重要であるといえる。</p> <p>しかし、これまで公立昭和病院では新入職の際に、実技を行う程度のトレーニングしか行っていなかった。そこで今回、個人防護具の適正使用を普及させる目的で、「個人防護具適正使用習得者認定制度」の立ち上げを行った。その制度の立ち上げの効果を検証する。</p> |
| 研究内容： | <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 個人防護具適正使用習得者認定制度の講座を受講し、認定試験を受験した職員 ●利用するカルテ情報 なし ●研究方法 認定試験の回答率から習熟度を評価する。 認定制度の講座への参加について、選択式および自由記載方式でアンケートを行う。 アンケート回答状況および講座出席状況と習熟度に関連性があるか検討する。 ●利用する研究機関の範囲 公立昭和病院 |
| 問い合わせ先： | <p>【研究担当者】 氏名：杉山 朋子 (看護部 師長) 住所：小平市花小金井8丁目1番1号 電話：042(461)0052(代表) FAX：042(464)7912</p> <p>【ご意見・相談窓口】(臨床研究・診療内容に関するものは除く) 総務課 042(461)0052 内線2247 受付時間：月～金 9:00～17:00(祝・祭日を除く)</p> |